

平成 1 8 年度事業報告

総括的概要

平成 1 8 年度の我が国経済は、長期にわたる閉塞感から抜け出した感はありますが、地域経済や中小企業においては依然景気回復を実感できる状況ではありません。

当商工会議所を取り巻く環境は、廃業による事業所数の減少は加速化し、少子高齢化に伴う後継者問題、空き店舗による中心市街地の空洞化、公的機関の統廃合等厳しい現実があります。

こうした状況の下、当商工会議所は、地域活性化と中小企業の経営安定化に應えるために、意見活動の積極的展開、中小・小規模企業振興対策、創業経営革新・情報化支援、地域振興対策、観光振興対策を基本方針に掲げ、新規および継続の諸事業を実施しました。

では、各部会・委員会を通じて、会員の抱える諸問題を把握し、都市機能の基盤整備と商工振興策について県知事、市長をはじめとした行政等関係機関へ対し積極的に提言活動を行ないました。

では、中小企業者や小規模企業者に対しては、経営改善事業などを通じてきめ細かな支援を行ないました。各会員事業所が抱える個別相談には経営指導員による定期巡回訪問と窓口相談で対応し、また「竹原ビジネススクール」では、社員教育、技術研修、経営の活性化、労務管理、財務、税務などのタイムリーな講習・講演を計画的に実施して経営支援をしました。

では、次代を担う竹原地域経済のリーダーを育成するための「竹原商人塾」を開催し、体験学習を中心とした実務講習会を実施しました。情報化支援としては高度情報化社会に対応した基盤情報通信インフラの整備について行政や関係企業に引き続き働きかけ、電子認証事業の普及促進に努めました。また、パソコン教室を開催して個別指導にあたり、会員事業所の技術データバンク等ホームページを充実させる等の諸事業を展開しました。

では、商業振興の起爆剤としてスタートした「市内共通商品券事業」と「かぐや姫スタンプ事業」との連携強化を図り、また、ecoの街たけはらを目指した「エコバッグ事業」を通してBUY たけはら運動を推進しました。

また、地元産品の魅力を再発見、ふるさとへの愛情、関心を創出する目的の地域ブランド事業「ぶちええ竹原」の登録商品をPRし、市内外へ情報を発信しました。そして地元企業の再発見事業として「観光産業ツアー」を実施し市民の方々に好評を博しました。

では、地域活性化に寄与する観光振興に対しては昨年度実施した観光客実態調査を踏まえ、観光資源の掘り起こしと見直し更なる観光客の誘致とリピーターの確保に努めました。特に観光二次交通について調査研究しました。

地域総合経済団体としての使命と役割を果たすべく関係行政機関との緊密な連携ならびに指導・助言のもとに、事業活動を積極的かつ効率的に実施いたしました。